

# 登山月報



中央台形が「大高取山」、右側「西山高取」



第3回スポーツライミング ボルダリングユース日本選手権	2
鳥取大会2017	
I S M F 総会報告	3
第104回 Mountain World	4
「山の日」制定記念 一ふるさとの山に登ろう	5
U I A A 登山部会イギリス、ケズイック会議	6
平成28年度事業報告	8
U A A A 理事会報告	11
新刊紹介	12
JMA、寄贈図書、編集後記	12

# 第3回スポーツクライミング ボルダリングユース日本選手権 鳥取大会2017

## 成績

男子ユースC										
順位	氏名	ナンバ	都道府県	課題1	課題2	課題3	合計			
							完登	ボーナス		
1	大後戸陽太	MC03	大分	T2 B1	B1	T2 B1	2T	4	3B	3
2	田中 裕也	MC16	岐阜	T1 B1	B1	T4 B4	2T	5	3B	6
3	三根生仁慈	MC30	大阪	T1 B1		B1	1T	1	2B	2
4	佐久間 祝	MC07	新潟	B1	B1	T2 B1	1T	2	3B	3
5	福谷 元気	MC25	岡山	B2	B1	T3 B2	1T	3	3B	5
6	鈴木 音生	MC09	静岡		B1	B4	0T		2B	5

男子ユースB										
順位	氏名	ナンバ	都道府県	課題1	課題2	課題3	合計			
							完登	ボーナス		
1	抜井 亮瑛	MB35	奈良		T2 B1	T3 B3	2T	5	2B	4
2	川又 玲瑛	MB12	栃木	B4	B4	T2 B2	1T	2	3B	10
3	竹田 創	MB26	宮城	B8	B2	T4 B4	1T	4	3B	14
4	黒木 陽	MB13	宮崎	B4	B5	B3	0T		3B	12
5	渡辺 颯海	MB54	新潟		B1	B2	0T		2B	3
6	野中 凜	MB36	愛知		B2		0T		1B	2
7	片桐 綾真	MB08	静岡		B8		0T		1B	8

男子ユースA										
順位	氏名	ナンバ	都道府県	課題1	課題2	課題3	合計			
							完登	ボーナス		
1	土肥 圭太	MA25	神奈川	T2 B1	T1 B1	T1 B1	3T	4	3B	3
2	中村 颯人	MA29	埼玉	T1 B1	B2	T2 B1	2T	3	3B	4
3	天笠 颯太	MA01	神奈川	T2 B2	T3 B2	B1	2T	5	3B	5
4	田中 修太	MA21	新潟	T1 B1		T4 B4	2T	5	2B	5
5	田嶋 瑞貴	MA20	三重	T2 B1	T6 B3	B1	2T	8	3B	5
6	中島 大智	MA26	岩手	T1 B1	B1	B1	1T	1	3B	3

男子ジュニア										
順位	氏名	ナンバ	都道府県	課題1	課題2	課題3	合計			
							完登	ボーナス		
1	楢崎 明智	MJ15	栃木	T3 B3	T1 B1	T1 B1	3T	5	3B	5
2	山内 響	MJ25	岩手	B6	T2 B1	T2 B1	2T	4	3B	8
3	本間 大晴	MJ18	埼玉		T4 B2	T1 B1	2T	5	2B	3
4	武者 知希	MJ20	北海道		T6 B5	T3 B1	2T	9	2B	6
5	北江 優弥	MJ05	大阪	B6	B3	T1 B1	1T	1	3B	10
6	名嶋 祐樹	MJ14	福岡	B9		T2 B1	1T	2	2B	10

女子ユースC										
順位	氏名	ナンバ	都道府県	課題1	課題2	課題3	合計			
							完登	ボーナス		
1	井土 桜花	WC04	北海道	T2 B1	T1 B1	T2 B2	3T	5	3B	4
2	美谷島ももか	WC32	東京	T2 B1	T3 B3	T3 B3	3T	8	3B	7
3	中川 瑠	WC24	大阪	T2 B2	T1 B1		2T	3	2B	3
4	工藤 空	WC13	山形	T6 B6	T3 B1		2T	9	2B	7
5	小池 はな	WC16	埼玉	T1 B1	B4		1T	1	2B	5
6	石井 秀佳	WC03	東京	T6 B6		B4	1T	6	2B	10

女子ユースB										
順位	氏名	ナンバ	都道府県	課題1	課題2	課題3	合計			
							完登	ボーナス		
1	伊藤ふたば	WB03	岩手	T1 B1	T1 B1	T1 B1	3T	3	3B	3
2	森 秋彩	WB40	茨城	T2 B1	T2 B2	T2 B1	3T	6	3B	4
3	菊地 咲希	WB11	東京	T3 B1	T2 B1	T2 B1	3T	7	3B	3
4	青柳 未愛	WB01	東京	T4 B2	T2 B2	T1 B1	3T	7	3B	5
5	工藤 花	WB13	山形	B1	T4 B2	T3 B1	2T	7	3B	4
6	瀧川 萌美	WB20	東京	T4 B1	B5	B4	1T	4	3B	10
7	栗田 湖有	WB14	新潟	B2	B6	B1	0T		3B	9

## 概要

歴史の街、鳥取県倉吉市でボルダリングユース大会を行った。今年で3回目。来年のアジア選手権もこの地で開催されることになっており、クライミングの街感が定着してきている倉吉体育文化会館が会場。全国からの参加者は284名を数えた。

会場：鳥取県立倉吉体育文化会館

期日：2017年5月20日(土)～5月21日(日)

参加：男子164人(ジュニア26人、ユースA47人、ユースB54人、ユースC37人) 女子120人(ジュニア13人、ユースA29人、ユースB41人、ユースC41人)



スB54、ユースC37人) 女子120人(ジュニア13人、ユースA29人、ユースB41人、ユースC41人)

やはり注目目は、女子ユースB(13～15歳)だ。決勝は、ドーピングの関係でユースC⇒ジュニア⇒ユースA⇒ユースBの順で行った。演出したかのようにユースBが最後となり、伊藤ふたば、森秋彩のパフォーマンスに沸いた。そして、すべての課題を初見で完登した伊藤ふたばが優勝。アテンプト差で森秋彩が2位、菊地咲希、青柳未愛も3完登で続いた。アテンプト差の勝負となった。伊藤のパワー、バランス各課題ともに簡単にこなしているように見える安定した登り、森の身長が足りない分失敗したムーブを修正してくる力など選手それぞれ持ち味を生かした登りは素晴らし





女子ユースA												
順位	氏名	ナンバー	都道府県	課題			合計					
				課題1	課題2	課題3	完登	ボーナス	3			
1	中村 真緒	WA17	東京	B1	B1	T1	B1	1T	1	3B	3	
2	曾我 綾乃	WA14	埼玉	B1	B1	T1	B1	1T	1	3B	3	
3	倉 菜々子	WA08	愛知	B3	T4	B2	B1	1T	4	3B	6	
4	樋口 結花	WA23	佐賀			B3	B1	0T		2B	4	
5	石井 未来	WA03	愛知	B2	B3			0T		2B	5	
6	大塚 優希	WA05	大阪					0T		0B		

女子ジュニア												
順位	氏名	ナンバー	都道府県	課題			合計					
				課題1	課題2	課題3	完登	ボーナス	3			
1	高田こころ	WJ07	鳥取	T1	B1	T1	B1	T1	B1	3T	3	
2	木下 茜	WJ05	長崎	B1	T1	B1	T1	B1	2T	2	3B	
3	大河内芹香	WJ02	長崎	T1	B1	T3	B3	B1	2T	4	3B	
4	古川日南子	WJ10	鳥取	T1	B1	B2		B1	1T	1	3B	
5	戸田 萌希	WJ08	山梨	B1	T3	B1		1T	3	2B	2	
6	錦織 美里	WJ09	広島	B4				B1	0T	2B	5	

## I SMF 総会報告

6月17日、国際山岳スキー連盟（I S M F）2017年総会がスペインとフランスに挟まれた小国アンドラで開かれた。総会には14か国の代表とオブザーバー2団体が参加した。

2016～17年シーズン報告 ワールドカップWC戦5戦、公認レース6戦と世界選手権が実施された。WCではトルコで初めての開催。アジアでは中国、韓国、そして日本で公認レースが実施されたことが高く評価された。上記レースのほかにLGCとして分類される伝統的長距離レースが3戦あった。今シーズン北米での公認レースがなかったのが悔やまれた。北米ではレース数が増えていて選手数も増え、世界選手権でもかなりの成績を残すまでになっているのに、その動きがI S M Fにつながっていないという不思議な現象が起こっている。総会にもアメリカ、カナダともに出席していない。

オリンピック関連の話題では、2016年リオ夏季オリンピック直前のIOC会議でI S M FがIOCの公認団体になり、次の段階は2020年のスイス・ローザンヌで開かれる第3回冬季ユースオリンピックでの競技実施の可能性が高くなっていることが明らかになった。現在すでに大会主催者との細目調整に進んでいるが、実施可否は本年7月9日のIOC理事会で最終的に結論が出る。実施される場合の細目はすでに出ていて、選手の年齢は大会年に17,18歳（誕生日が2002年1月1日～2003年12月31日）競技会場はスイスのLes DiableretsまたはVillarsになる予定。種目はスプリント、MIXリレー（男子2女子2）、個人の3種目。選手総数は、男子24女子24合計48名。大陸別選手枠を

い。また、ジュニア女子に出場した高田こころも3完登で優勝し、地元として盛り上がった。

男子ジュニアでは、榑崎明智がただ一人の3完登で優勝。身長が高く手足の長さを活かした登りは日本人離れしており、兄と違った可能性を感じる。ユースAでは、土肥圭太が3完登で優勝。やはり、想定した通り上位には各大会で活躍している選手が並ぶ。ただこの年代、伸びしろは無限。入れ替わりもあるだろう。今後が楽しみだ。（実行委員長 村岡正己）



どうするかなどこれから検討される。

その次は2022年の北京冬季オリンピックでの採用だが、中国登山協会の協力のもと競技会場がほぼ確定し、その場所で2017年12月15,16日にアジア初のワールドカップ戦が実施されることになっている。IOCの仲介で北京大会主催当局との折衝にも入った。

こうした動きを見据えてI S M Fでは2020年ユースオリンピックも視野に入れ、アジア初のワールドカップ戦が実施されるのにあわせてアジアのユース向けのトレーニング+ミニレースのプログラムを本レースの前に入れることになった。このレースには日本からも多くの参加が期待される。

今回の総会には、トルコに加えイランからも参加があり、アジアでの競技の広がりがゆっくりだが進んでいることが確認された。中国でのユースキャンプに呼応する形で日本もジュニアも含め選手強化の取り組みが必要なのは間違いない。

その他総会で話題になった報告は、専門家を起用して競技の普及にフェイスブック、ユーチューブ、インスタグラムなどインターネットやSNSを駆使した結果、競技への注目度が上がったというものである。

これからは、既存のメディアだけでなく、あるいは既存メディア以上にネット空間をフルに使うことが肝要との理解がひろまった。（記 笹生博夫）

※7月9日のIOC理事会で山岳スキー競技が2020年冬季YOGで実施されることが決定した。

## 第104回 Mountain World

### ネパール・ヒマラヤ 2017年春 (続報)

池田常道

2014年のアイスフォール遭難、15年の大地震と2年間のブランクを乗り越え、今季のエヴェレスト(8848m)は往時の勢いを取り戻してチベット側を含めた登頂者は約600を数え、延べ登頂者数は8000を超えた。このペースで行けばあと4年で1万の大台に達する。

今季最大の話題だったローツェ(8516m)への無酸素縦走計画が、5月号本欄で報じたように、ウエリ・シュテックの滑落死によってついで、記録への興味はスペインの山岳ランナー、キリアン・ジョルネ・ブルガダの北面スピード登頂に移った。前号に書いたとおり、彼は5月20日深夜にロンブックBC(5100m)を出て22日未明に登頂(所要26時間)、帰りはABC(6500m)まで12時間で下って行動を打ち切った。

ロンブックBCから頂上までの記録はないが、間違いなく新記録だろう。ただし、ジョルネはこの日、胃の不調に悩まされてしばしば歩みを止めざるを得なかったらしい。ABCに留まった彼は27日午前2時に出発して再挑戦、17時間で頂上に立ち、11時間半でABCに帰った(合計28時間半)。しかし、これは1996年にイタリアのハンス・カマーランダーが作った16時間45分(下降はスキーを使って6時間半)に及ばず、新記録ではない。ちなみに、南面ルートでのスピード登頂記録はクーンブBC(5350m)を起点とし、2004年のペンバ・ドルジが酸素使用で8時間10分、98年のカジ・シェルパが無酸素で20時間24分を記録している。

ポーランドのヤヌシュ・アダムスキは、5月21日にチベット側から頂上に立ち、そのままサウス・コルへと下降した。当然のことながらネパール側の許可などなく、国境侵犯事件として裁かれる結果になった。ネ政府による2万2000ドルの罰金は免れたようだが、向う10年間の入国禁止処分を受けた。

エヴェレストの南北縦走は、88年の日＝中＝ネ三国合同隊が公式許可の下に実施した以外は93年許永浩(韓国)とそのシェルパの北→南、06年のシモーネ・モーロ(イタリア)の南→北の2例がいずれも無許可で行なわれた。前者は、最終キャンプのテントが火災で焼けたための緊急避難、後者は、ルートを失って引

き返せないほどの所まで下りてしまったという弁解で切り抜けていた。ただし、モーロには、決行の数年前から、エヴェレスト越えでチベット入りする許可を中国当局に求め続けていた。アダムスキの場合は、そう簡単にはいかなかった。国境侵犯を重く見た中国・チベット登山協会(C T M A)は、こんな事例が繰り返されないよう来春に向けて対策を建てるため、この秋、チベット域内の8000m峰登山を禁止する措置を取った。この秋にチョー・オユーやシシャパンマを目ざす登山隊にとっては、とんだとぼっちりとなった。

昨年春、ネパール観光省はエヴェレストに登ったシェルパに対して登頂証明書を発行しなかった。証明書は登山規則で、「エヴェレストおよび他の6500m以上のピークに登頂した登山隊メンバーに与えられる」となっているが、隊に雇われたクライミング・シェルパは登山隊メンバーに当たらないという理屈だった。

プライドを傷つけられたシェルパたちは今シーズン早々にエヴェレストBCで数百名規模の集会を持ち、自分たちを二流扱いしたこの措置に強く抗議した。観光省当局者は、問題ある条項は改正の方向で検討されており、もちろんシェルパにも証明書を出す回答せざるを得なくなった。

ヒラリー・ステップが崩壊したと公表したティム・モーズゲール(英)は、「聖なる山の神聖な構成物について誤った情報を流した」廉で収監され、罰金2万2000ドルを言い渡された。ネ政府は、アイスフォール・ドクターからステップはまだ残っていると聞いて、モーズゲールの情報を虚偽と決めつけたらしいが、彼は下のショットを含む数点の写真を新たに公表して、主張を曲げていない。そもそも、アイスフォール・ドクターのだれが今季現場まで行って、ステップが無事だったことを確認したのか、疑問が残る。



2009年撮影のヒラリー・ステップ。前号の写真と比較すると、赤線で囲まれた部分が消えている



# 「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

## 埼玉県

埼玉県越生(おごせ)町は山間部が大半を占め、高く険しい。山伏が歩く山やのどかな丘陵地帯もある。越生町は自然を大事にする町だ。植物や動物たちも多く、花は特に多く秋遅くなるとユズの黄色が光り一年が終わる。年が明けるとすぐ梅が始まり有名な梅祭りは2、3月。続いて桜、みつばつつじ園、五大尊つつじ公園、山吹の里歴史公園、初夏になるとあじさい街道、麦原等々。次に越生町は歴史も古く先程の山吹の里で有名な太田道灌は越生町龍ヶ谷の三枝庵で生まれたといわれ扇谷上杉の家臣であった。文明4(1472)年龍穩寺の再建に太田道真、道灌が泰叟妙康(たいそうみょうこう)第三世を招いて中興し曹洞宗の大寺院に発展した、太田道真、道灌の墓もある。

越生町小杉の「太田道真退隠地：居館自得軒跡」は小杉の建康寺付近と言われている。次に黒山地区は室町時代の応永5(1398)年「京都聖護院」を本山とする本山派修験の山本坊栄円が、関東に修験をひろめるため「関東の熊野霊場」として熊野神社等を整備した。江戸時代初期(1615～)には西戸村(現毛呂山町)に本拠を移した後も越生山本坊と称した。最盛期は150もの配下を治め27先達の一つに数えられた。しかし明治になり修験道の神仏習合の状態は禁じられて修験道は廃止となった。その後すぐに許可され今は正常に活動している。越生町では正装した山伏を見ることが出来ます。

今回のコース大高取山は山本坊の修験道コースの始まり、吉野三山(西山高取、大高取山、桂木山)を想定し、さらに黒山地区の山々を熊野に想定したといわれています。越生町は2016年ハイキングの町を宣言しました。皆さん是非一度お出かけ下さい。

越生駅から観光案内所に寄ってから、まず世界無名戦士の墓に参ります。駅前の通りに出たらそのまま法恩寺の門の所から右に回りこむように行くと車道に出、越生神社・高取城跡入口を過ぎ正法寺を右に見て逆S字型に登って広場に着く。右がさくら山公園、左上が世界無名戦士の墓。長い階段を登ると、大観山に建てられた戦没者納骨堂がある。白垂の霊廟は展望台になって、関東平野が一望され、春にはさくら山公園と霊廟の桜が見事に咲く。此処から西山高取までは約20分だが、急で道が荒れているのでゆっくり登ろう。

西山高取展望台からは南東方向に関東平野、右から日和田山、平沢富士、石尊山が見える。次は大高取山



中央台形が「大高取山」、右側「西山高取」

をめざし静かな植林の中を歩く。途中「白石様」と云う石灰岩の露出がある。大高取山は左を登り尾根に出たら西側に少し登ると三角点がある大高取山(神之倉山・376, 4 m)山頂。山頂は北東方向が見える展望台になっている。今度は南へ少し下り、登った所が桂木山(372, 7 m)。「新編武蔵風土記稿」に「往昔行基菩薩行脚の時此の山に上りて大和の葛城山に似てたればと桂木と名付けたりし」と又「龍穩寺には第七世の僧節庵が天文十二年(1543)記す所の縁起に應永年間、同寺の改祖無極和尚、観音堂の霊場を慕ひて當山に登りしこと見ゆ、山の半腹に観音堂あり、山の絶頂には松樹二三株ありて其餘は刺棘のみ生茂り、ここより房総常陸上下野州或いは、秩父の山々などまのあたりに見わたされたり。又近くは川越城或いは伊佐沼など眼下に見へり」と出ている。

現在は植林で景色は見えない。坂を下ると有名な桂木観音堂だ。戦後昭和30～40年(1955～1965)頃作家の三角寛氏が下の桂木寺に住んだ。観音堂の屋根の瓦を葺き替え、鐘楼堂を建立。地元の方々も後を守っている。この下には休憩所と展望台がある。次は毛呂山町に少し下ると車道から左へ入る指導標がある。左に入り少し登って七曲に着く。下に降りると虚空蔵尊、右の尾根を下ります。尾根道は途中巻き道と尾根通しに分かれますが、花時は尾根の方が良い。此の尾根は山桜が多く春は良い所です。途中に三石権現があり『ゆうパークおごせ』に着きます。此処からは越生町観光案内所(OTIC)まで無料バスが出ています。

※休館日毎週木曜及び年末年始、歩行時間約3時間

(元県岳連理事長：野井 篤)

### 平成29年度無雪期レスキュー講習会(西部地区)

期 日 平成29年9月8日(金)～10日(日)

会 場 国立登山研修所(富山県新中川郡立山町)

## UIAA登山部会イギリス、ケズウィック会議

UIAA登山部会定例会議 (Mountaineering Commission; MountCom) が2017年4月21～22日に、イギリス湖水地帯北東部にあるケズウィック Keswick の Derwent Hill Training Center で開催された。会議は、英国登山評議会 BMC (British Mountaineering Council) の主催によるもので、Nick Colton (BMC 副会長) を始め、14ヶ国、16人の参加者があった。

湖水地帯 Lake District は、日本からの観光客も多く、ポターのピーターラビットで有名な穏やかな風景が広がるウインダミア Windermere が知られているが、岩場の多い、広大な山岳地帯でもある。登山事故も多く、多くの山岳レスキューが集まっている。

### 1. 山岳レスキューの活躍

筆者も2010年 Ambleside や Patterdale の山岳レスキューチームを訪ねたことがある。そこで、あまりにも日本とは異なるレスキューの在り方に驚き、その優れた点の僅かでも、日本に取り入れることができると願ったものである。以下、主な特徴を紹介する

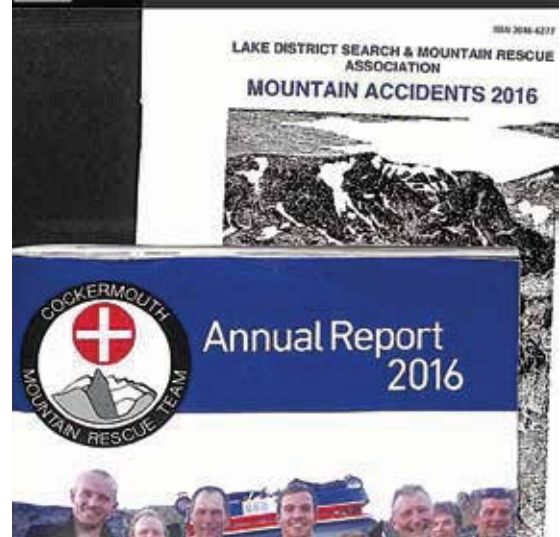
市民寄付を活動資金とするボランティアとして、1年24時間(夜間救助)対応し、警察、消防に頼らない山岳救助専門チームを作り上げていること。レスキュー者に痛み止め注射や挿管行為などの医療行為が任せられていること、大きな建物に、救助のために必要な大規模救助装置、器具、設備を備えていることなどである。活動は山岳救助だけでなく街中での洪水救助なども任されており、日本の消防から、レスキュー領域を切り取った組織と理解すれば分かりやすい。なお、警察は事件性のある事故以外は山岳救助には関与しない。

遭難形態は、アルパイン型を主体とするヨーロッパにあって、中高度山域を主体とする日本に類似している。山岳レスキューはイギリス全土をカバーする組織であるため、世界で最も高精度で、信頼性の高い遭難事故データベースを構築してきた。これらの遭難データは毎年イギリス全土のレスキューチームから統計事務局の Rob 氏の元に集められ、集計/解析後、全ての解析結果は各レスキューチームに返される。この解析データを基に、各レスキューチームは、年次報告書(例えば Cockermouth Mountain Rescue Team, 62nd Annual Report 2016 として)を作成し、一般市民に公開される。

### 2. UIAA山岳事故データベースへの参加

日本が最初に契約参加した UIAA の山岳遭難事故

データベースのための事故データ交換に、引き続き応じてくれたのは、イギリスの BMC とイングランド・ウエールズ山岳レスキューチーム MREW であった。現在、MREW の事故統計担当者の Rob 氏と XML schema でのデータ構造について打ち合わせを行っている。早ければ年度内にその成果を報告できると考えている。



レスキュー活動報告書

### 3. 新部会長による登山部会

今回から、新部会長 Claudio 氏により、登山部会が開催されるようになった。前部会長 Pierre 氏が弁護士であったため、会議はオーソドックスな議事の進行スタイルをとったが、新部会長はロボット工学の教授のためか、理系的発想から議事が進行しだした。その典型的な事例が、会議第1日目に初めて、山に登り、現場で、UIAA Training Panel 代表の Steve 氏による研修講義と指導法のあり方について、研修講義の一端が紹介されたことである。部会長の活動方針として、UIAA 関係者のための登山教育・訓練のあり方は、リスク管理を通じて、登山中の安全性強化を目指した登山訓練や指導法であるべきと考えている。併せて、登山に対する姿勢として、登山倫理ならびにその持続可能性に関する意識向上を目指している。また、登山アクセスや登山者の法的責任などに関する法的問題の知識・経験を共有するためのフォーラムを継続的に開催していくとしている。

### 4. 登山倫理問題

登山倫理ワーキンググループ代表の Dug Scott (Traditional Climbing Working G) 氏により説明があり、冒険登山のための自然保護 Preservation of Natural Rock for Adventure Climbing に関する資料の価値が認められ、多くの国々で翻訳されているとの報





ナビゲーション指導風景

告があった。関心がある方は、以下のサイトからダウンロードしてほしい。

<http://theuiaa.org/documents/declarations/13-01-2014-revision-The-Preservation-of-Natural-Rock-for-Adventure-Climbing.pdf>

また、最近の傾向として、土地所有者や地元山岳会の了解なしで、残置支点を取り付ける問題が増加している。多くの場合、他国からの来たクライマーによるもので、登山部会では、これらのケースについてモニタリングしている。そして、どうしても、固定支点を設置したいのであるのなら、どうすれば、クライマーが現地での伝統や倫理に配慮した手続きを踏んでいいのか、手をさしのべる方法について検討している。

## 5. 那須スキー場雪崩遭難事故の U I A A 登山部会での解釈について

現在、日山協登山部で進めている、「U I A A 標準化登山教育の認定取得」の目指すところは、安全登山指導法を世界標準まで引き上げることにある。我が国の登山教育は、決してレベルが低い訳ではないが、様々な山岳組織で独自の登山教育がなされ、その資格認定も多種多様な状況にある問題を抱えている。U I A A の目指すところは、その国独自の登山形態に配慮しながらも、登山教育指導方法、指導組織、評価方法などを世界レベルに統一化することである。一種の I S O 資格認定（例えば、環境問題の I S O 14000 シリーズや、品質管理の 9000 シリーズなど）あるいは、多くの大学工学部が取得する日本技術者教育認定機構の J A B E E と理解して頂ければ分かり易い。

3月27日に発生した栃木県那須町のスキー場で発生した雪崩事故は教師、生徒8人が亡くなり、40人が負傷する登山教育史上最悪の結果をもたらした。安全登山教育を目指す U I A A の登山部会の指導メンバーが、この事故をどのように解釈するのか、我が国の登

山界においても重要であると考え、多くの関係資料を元に、事故詳細について説明した。

事故の原因解釈については、猛烈な質問があり、我が国の登山教育の背景と組織について説明を繰り返したが、「何故、そのような気象条件と積雪状況下で、斜度30度の斜面で、ラッセル訓練しなければならないのか」に批判が集中した。「高校生には冬山登山が原則禁止され、春山として、実施したこと。そのため、ピーコンは全員不携帯であったこと」との説明に対し、「理解できない」という意見が全体を占めた。NHK時事公論での「繰り返された登山講習事故」として、大日岳事故からの教訓が広く教育関係者に生かされなかった事例を紹介すると、一斉にため息が聞こえた。なお、「ラッセル」は英語に無いため、民放が事故に遭遇した高校生から聞き取りし、再現した映像を用いて説明した。我が国で最も関心が持たれた弱層テストの実施有無については、局部的実施では全体が掴めないとして、議論は少なかった。

結局、当会議での解釈は、我が国の多くの雪崩専門家の指摘事項と全く同じであった。さらに、「もし U I A A 教育資格保持者なら、このような事故は防げたのか」との質問に Training Panel の Steve 代表は、「勿論、自然環境下で活動する以上、完全に事故を防げるとは言えないが、限りなく少なくなる」との回答があった。さらに、部会としては、「この種の事故リスクを減らす U I A A 指導法の開発を継続的に取り組んでいかなければならない」として終了した。



Derwent Hill Training Center にて

(避難対策委員会副委員長 青山千彰)

### 平成 29 年度中高年安全登山指導者講習会

〈東部地区〉

期 日 平成 29 年 9 月 22 日 (金) ~ 24 日 (日)  
会 場 静岡ホテル時の栖、竜爪山

〈西部地区〉

期 日 平成 29 年 10 月 7 日 (土) ~ 9 日 (月)  
会 場 山口県セミナーパーク、陶ヶ山連山

## 平成28年度事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

### I. 総括

平成28年度は、本会創設以来の大きな節目の年となった。スポーツクライミングが、「東京2020オリンピック大会」の追加競技になったことのほか、「山の日」が国民の祝日として施行されたことである。とりわけ、スポーツクライミングの五輪種目化への対応については、平成27年11月に「諮問委員会」を設置して、中央競技団体(NF)の在り方や組織体制、法人名称等について審議していただき、4月に答申を受け、その答申に基づく対応原案を策定して、臨時理事会に諮り協議した。その結果、法人名称の変更や組織再編など、答申に沿った対応を図ることが決議された。このことを受け、11月に開催された第3回理事会において組織改編に伴う組織・管理運営規程の改正を決議し、同日午後開催された臨時総会で、法人名称の変更に伴う定款変更と、平成29年度から法人名を「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会」と改称することが議決された。

なお、組織再編の中で、東京五輪に向けて「東京五輪推進室」(会長直轄)が設置された。スポーツクライミングが、東京五輪の追加競技になったことで、日山協を取り巻く環境は激変し、今年度後半以降は、事務局の通常業務に支障が出るような報道対応に迫られており、事務局体制の強化が急務である。

一方、国民の祝日「山の日」(8月11日)が施行されたことを機に、「ふるさとの山を登ろう」キャンペーンを各都道府県山岳連盟(協会)が、日本山岳会各支部、日本勤労者山岳連盟の各県連盟、日本山岳ガイド協会等と連携するなど、夫々の地域の特色を生かした事業を展開した。42都道府県山岳連・協会が実施した。今後、これを契機に各山岳団体と連携して安全登山普及活動や山岳自然保護活動などの事業展開につなげていきたい。

また、昨年度から広報委員会内に「デジタル情報小委員会」を設置し、HPのリニューアルに取り組み12月15日から運用を開始した。

なお、平成25年度から公益法人になり、今年度初めて、去る12月21日内閣府の立ち入り検査を受けた。2名の検査官が来局し、個々の問題を指摘されたが概ね良好との評価を受けた。

### 1. 青少年育成事業

ア) 高体連登山部関連

①第60回全国高等学校登山大会の開催

8/6(土)～10(水) 岡山県・蒜山高原 男子47校、女

子46校参加。

②第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会

12/24～25 加須市体育館 男女184名参加

イ) ジュニア普及

①「少年少女登山教室」の開催(委託実施25件)

②「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山2016」

8/17(水)～20(土) 国立立山青少年自然の家、9名参加

③ジュニア普及情報交換会 国立オリンピック記念青

少年総合センター 2/11(土) 講師3名、参加23名

④「みんな集まれ!なすかし雪遊び隊2017」

3/27(月)～29(水) 国立那須甲子青少年自然の家

16名参加

ウ) 祝日「山の日」制定記念事業「ふるさとの山を登ろう」42都道府県山岳連盟(協会)で開催

### 2. 登山に関する文化・学術の振興事業

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

・スポーツクライミング関係記者会見

4/21(木) 岸記念体育会館、8/4(木) 岸記念体育会

館、8/31(水) B-Pump 荻窪店、9/20(水) 羽田空港、

11/22(水) 八王子市役所、1/23(月) 岸記念体育会

館、2/14(水) B-Pump 荻窪店

・国際大会結果のプレスリリース

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

・第6回日本山岳グランプリ:沖允人氏(愛知)

・第66回日本スポーツ賞: 檜崎智亜選手

・平成28年度自然公園指導員自然環境局長表彰: 齋藤長作氏

・公認スポーツ指導者功労表彰: 亀田行宣(石川)、西原斗司男(兵庫)、雨宮節(沖縄)

・新春懇談会特別表彰: 長谷川清(福井)、稲泉真彦(山形)、小森栄治(茨城)、相澤岩男(宮城)、尾形一幸(福島)、後藤利雄(大分)、古屋寿隆(山梨)、山根幸雄(山口)、「はんしん自立の家」甲山登山隊、檜崎智亜、藤井快、野口啓代、野中生萌、小林幸一郎、会田祥

エ) 平成28年度海外登山隊奨励金の公募と交付

「2017パタゴニア ビックウォールフリー遠征隊」(20万円交付)

「Giri Giri Boys Patagonia Expedition 2017」(20万円交付)

「日本ルンポ・カンリ登山隊2016」(20万円交付)

「Kang Nachugo Expedition 2016」(20万円交付)

「2017 K7 遠征隊」(20万円交付)

「2017 シスパーレ遠征隊」(20万円交付)

オ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興

カ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化等の後援



### 3. 安全登山の啓発事業

#### ア) 中高年安全登山指導者講習会

- ① 東部地区(新潟・角田山周辺) 9/23(金)～25(日) 77名
- ② 西部地区(徳島・剣山周辺) 10/8(土)～10(祝月) 58名

#### イ) 山岳レスキュー講習会

- ① 西部地区(国立登山研修所)  
9/9(金)～11(日) 参加者42名

- ② 東部地区(土合山の家)  
1/27(金)～29(日) 参加者39名

#### ウ) 第55回全日本登山大会・島根県大会

11/4(金)～6(日) 島根県・三瓶山・石見銀山周辺  
170名参加

#### エ) 研修及び研究会

##### ① 登山倫理シンポジウム

5/22(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

##### ② 国際委員総会兼第55回海外登山技術研究会

6/11(土)～12(日) 京都ゼミナールハウス 参加者62名

##### ③ 遭難対策研修会兼委員総会

6/25(土)～26(日) 埼玉県民活動総合センター  
参加者39名

##### ④ 海外登山懇談会の開催

11/17(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者19名

#### オ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

カ) 平成28年度全国山岳遭難対策協議会の共催(文部科学省他) 7/8(金) 国立オリンピック記念青少年総合センター参加250名

#### キ) 山岳保険加入者の事故調査

#### ク) UIAA登山標準の調査

- ・UIAA登山委員会へ青山遭対副委員長出席  
4/22～23 プラハ
- ・UIAA登山委員会へ青山遭対副委員長出席  
11/4～5 ヨルダン

#### ケ) 遭難事故の調査研究

- ・遭難事故に関する調査研究(委託事業)
- ・遭難事故の科学的分析

#### コ) 遭難事故科学的研究支援

- ・IMSAAR研究助成支援(継続)

#### サ) 内閣府「噴火時等の手引き作成委員会」への協力

### 4. 登山指導者育成事業

#### ア) 指導員研修会

##### ① 指導常任委員研修会

- ② 氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会、研修会)  
4/29(金)～30(日) 富士山 参加者26名

2/18(金)～19(日) 大山 参加者31名

##### ③ 指導委員研修・委員総会

6/11(土)～12(日) 東京海員会館 参加者58名

#### イ) 指導員養成講習会

#### ウ) 公認山岳スポーツ指導者の養成

- ① コーチ・上級指導員・指導員養成講習会の実施  
・各岳連(協会)会長に委嘱し年間実施

#### エ) 国立登山研修所研修会の後援(通年)

### 5. 登山者教育事業

#### ア) 夏山リーダー検討会

#### イ) 指導・遭対委合同研修会

8/20(土)～21(日) 神奈川県山岳スポーツセンター  
参加29名

### 6. 競技会運営事業

#### ア) 競技会・研修会の開催

##### ① I F S C ボルダリングWC加須大会2016

4/23(土)～24(日) 加須市民体育館 世界25ヶ国・  
122名参加

##### ② 日本ユース選手権ボルダリング競技大会

5/14(土)～15(日) 鳥取県倉吉市 230名参加

##### ③ 第30回リード・ジャパンカップ(岩手国体リハーサル大会)

6/11(土)～12(日) 岩手県盛岡市 138名参加

##### ④ 第19回JOCジュニアオリンピックカップ

8/13(土)～15(日) 南砺市桜が池cc 235名参加

##### ⑤ 全国ルートセッター研修会

8/16(火)～18(木) 南砺市桜が池cc 参加者9名

12/26(月)～28(水) 加須市民体育館 参加者10名

##### ⑥ 第12回ボルダリング・ジャパンカップ予備予選大会

参加者170名 12/10(土)～11(日) 深谷クライミング  
ヴィレッジ

##### ⑦ 第12回ボルダリング・ジャパンカップ 参加者:男子

132名、女子38名 平成29年1/28(土)～29(日)

代々木第2体育館

##### ⑧ 日本選手権リード競技大会2017 男子76名、女子45

名 平成29年3/4(土)～5(日) 加須市民体育館

##### ⑨ 競技委員会ブロック研修会の開催準備

11月～3月 全国9ブロック

#### イ) 国体山岳競技の主管

##### ① 第71回岩手国体第1回基準会議 4/30(土)～5/1(日)

##### ② 第71回岩手国体第2回基準会議 6/10(金)～12(日)

##### ③ 組合せ抽選会 9/4(日) 岸記念体育会館

##### ④ 第71回岩手国体山岳競技開催 10/6(木)～9(日)

##### ⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)

##### ⑥ 第71回岩手国体以降の開催県への指導

#### ウ) 競技運営

##### ① 競技委員総会の開催(4/3(日)、岸記念体育会館)

② 国体山岳競技への支援協力 ルートセッター派遣、  
ブロック別研修会講師派遣

## 7. 競技力向上事業

日本選手の健闘がNHK他民放各局にて放映された。

ア) 日本代表選手選考・派遣

① 代表(S、A、B)の選考

② I F S C アジア選手権大会

8/3(水)～6(土) 中国・都勻

③ I F S C 世界選手権大会

9/14(水)～9/18(日) フランス・パリ 選手19名。

橋崎智亜が男子Bにて金メダル、女子Bでは野中生萌、野口啓代が2位、3位。

④ I F S C アジアユース選手権大会

9/27(水)～10/1(土) イラン・テヘラン 選手10名。B、Lで、金9個、銀6個、銅2個のメダル17個を獲得。

⑤ I F S C 世界ユース選手権

11/7(月)～13(日) 中国・広州 Lで銀2個、銅3個、Bで金1個、銀2個、銅1個を獲得。

⑥ I F S C クライミングWC 2015 (リード、ボルダリング) 3月～9月 世界各地

⑦ S 代表(L:大田理紗、小林由佳、中野稔。B:野口啓代、野中生萌、藤井快)及びA、B代表の派遣

イ) 代表選手強化合宿(8/31～9/1、B-pump, ナショナルトレセン、12/17～18 ナショナルトレセン)

・ユース強化合宿 1/2(日)～10(火) フランス

・日本代表合宿 2/13(月)～14(火) ナショナルトレセン、B-pump

・ユース強化合宿 3/27(月)～28(火) 昭島MOV

ウ) 競技者育成プログラムの作成とそれに係る事業の検討

エ) 東京五輪推進室の設置

## 8. 国際交流事業

ア) 国際交流

① ロシア山岳連盟代表団(11名) 来日(ロシア女性クライミング・フェスティバル) 4/11(月)～24(日)

小川山、瑞牆山、富士山

② ネパール憲法制定1周年記念レセプション

9/20(火) ネパール大使公邸

八木原会長、小野寺常務理事

ウ) 派遣

① ローヴェ・マナスル初登頂60周年記念祝賀会

4/29～5/1 カトマンズ 八木原会長

② マカルー、カンチェンジュンガ初登頂60周年記念祝賀会 11/19 カトマンズ 八木原会長、小野寺常務理事

③ BMC 女性ピナクルクラブ派遣 6/12～19 1名参加

④ U I A A Joint Expedition カルリタウ及びハンテングリ登山への派遣 7/22～31 参加者6名

⑤ U I A A ユース大会への派遣

7/5～7/10、7/25～7/30 フランス、イタリア  
参加者1名

## 9. 医・科学支援事業

ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援

スポーツドクター受講者推薦1名

イ) U I A A MedCom

① U I A A MedCom Meetingへ増山医科学委員長出席  
8/4、米国コロラド州Telluride

② U I A A MedCom Meetingへ増山医科学委員長出席  
3/27～29 ネパール カトマンズ

ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業

① 国際認定山岳医研修会

② 日本登山医学会認定山岳医研修会

③ N P O 富士山測候所を活用する会

④ J S M M 登山者検診ネットワーク

⑤ 日本登山医学会ファーストエイド講習会

エ) 調査研究事業

① トラン大会の安全基準作成のための調査研究

② 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

③ 競技力向上事業に係る調査研究(「競技力向上事業」を参照)

## 10. アンチ・ドーピング事業

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

① ドーピング検査実施(JADAに委託)

② T U E (治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援

③ A D A M S (アンチ・ドーピング管理システム)登録  
選手への管理支援

## 11. 山岳環境保全事業

ア) 研修及び研究会

① 自然保護委員総会 9/3～4 国立オリンピック  
記念青少年総合センター 参加72名

② 常任委員現地研修会 6/18(土)～19(日) 山梨県・三  
ツ峠 参加者39名

③ 第5回関東地区自然保護交流会

10/1(土)～2(日) 千葉県・館山 参加者44名

④ 第7回自然保護指導員研修会

古くから多くの文人や詩人を惹きつけた黄山の絶景を眺めながらトレッキング

### 天下の絶景・黄山トレッキング 6日間

発着地 東京 旅行代金 ¥248,000

出発日 10/15(日)・11/5(日)・11/19(日)

※燃油サーチャージ(2017年6月20日現在:目安約1,000円)が別途必要です。  
今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコド保証会員

 アルパイン ツアーズ サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com



11/5(土) 国立オリンピック青少年総合センター

参加者35名

イ) 自然保護の啓発

- ① 自然保護指導員制度の推進
- ② 全国環境月間(6月)の実施
- ③ 環境庁・自然公園指導員制度への協力
- ④ 山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
- ⑤ JOC主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

## 12. その他支援事業

ア) 熊本地震救援募金活動

8/末で869,634円、9/7に熊本岳連に贈呈

## 13. 共益事業

ア) 広報等

- ① 『登山月報』毎月15日定期発行  
第565号(4月号)～第576号(3月号)
- ② HPの更新 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

## UAAA理事会報告

6月1日～2日にモンゴルの首都ウランバートルからバスで8時間のセレンゲキャンプ場でアジア山岳連盟(UAAA)2017年春期理事会が開かれた。8の国と地域(韓国、中華民国、香港、イラン、ネパール、日本、キルギスタン、モンゴル)から14団体が参加。日本からは日山協、八木原会長と笹生、労山から浦添理事長と花村副会長が参加した。隣国中国は不参加であった。

冒頭、田部井淳子さんほか昨年から今年にかけて亡くなった岳人への黙とうで会をはじめ、ついで、ホストであるMCMAC会長から歓迎の挨拶があった。

続いて各団体から活動報告で始まった。各団体の活動報告では、スポーツクライミングやアイスクライミング大会の開催、各種講習会の実施、清掃登山報告などが多かった。

ネパール登山協会(NMA)アン・ツェリン会長から今期エベレストではNMAが大規模な清掃登山を実施、20トン以上のごみと遺体6体を回収。また南北からの登頂者が500人超、死亡6名、ヒラリーステップ崩壊は誤解で右側に新たなルートを開いたこと、など興味深い報告があった。

八木原会長からエベレスト他の頂上に大量のカタが残されているのは「シェルパ達の宗教的な思いがあると思うので言いにくいのだが問題では?」と指摘したところ、アン・ツェリン氏から「その問題は十分認識しているが宗教儀礼がからむ問題なので解決には極めて細かな手順を踏まなければならないので、慎重に進めてい

る」とのコメントがあった。

日山協は、八木原会長がクライミングのオリンピック種目化にともなう団体名称の変更について報告し、さらに、オリンピック競技だけでなく登山団体として従来通り登山関連活動にも今まで以上に力を入れて、しっかり取り組むと報告した。労山からは、会員データと山岳保険からみた登山人口の構成、山における事故・遭難の傾向を分析した報告があり注目を集めた。

今理事会で焦点になったのは、会員資格に関する規約の変更で、各国からの「准会員」を含む加盟団体数、オブザーバーとしての加盟条件をどうするかであった。これは数団体からオブザーバー加盟要請が出ていること、加盟していても年会費未払い、総会不参加の休眠団体があることへの対策が必要になった為である。しばらくの議論のあと、事務局が論点を整理した加盟団体とメールで議論して総会までに改正草案をまとめることになった。

今後の会議日程について、2017年総会はイランだが、会場はテヘランからシラズに変わるかもしれないとのこと。2018年春理事会はロシア・ノボシビルスクだが、主催者と連絡が滞っていて確認中。2018年総会はUAAA総会がモンゴルで開かれるのでそれに合わせて、再びモンゴルとなる。2019年理事会は台湾で、総会はキルギスタンが手を挙げた。2020年理事会について労山が考慮するとの意向を表明した。

来年のアジア山岳連盟役員改選については今年春から夏がそれぞれの自国協会(連盟)の役員改選期にもぶつかり、微妙な時期であるので秋の総会に先送りした。閉会に先立ち李会長から、UAAAとしてシェルパ・オブ・ザ・イヤー賞を設けてはどうかとの提案があり、前向きの方で検討することで合意した。さらに昨年亡くなった田部井淳子さんを偲びHAT-Jのアジア青少年交流で多くのアジアの青少年が貴重な経験と積んだことを改めて評価したいとの言葉で閉会の辞を終えたことが印象に残った。  
(記 笹生博夫)



## 『高山病と関連疾患の診療ガイドライン』

日本登山医学会  
高山病と関連疾患の診療ガイドライン作成委員会 編

2017年4月、信州大学 花岡正幸教授を委員長とする「日本登山医学会高山病と関連疾患の診療ガイドライン作成委員会」により『高山病と関連疾患の診療ガイドライン』が制作、発行された。今回はこのガイドラインを紹介したい。



2013年の富士山世界遺産登録や2016年「山の日」制定などの動きを受け、これまでも増して登山への関心は高まりつつある。一時低迷していた登山者人口は再び増加しており、若年者から高齢者まで登山者のすそ野は広がっている。しかし懸念事項として、遭難事故の増加問題があり、慢性疾患を抱えた登山者も少なくないことから、今後も疾病と関連した遭難事例は増加することが予測される。

こうした傾向を背景に2013年の第33回日本登山医学会学術集会において、ガイドライン作成委員会の設立と編集方針が承認され、今回の書籍発刊が企画された。世界的には2010年にWilderness Medical Society (WMS)が「高山病の予防と治療のガイドライン(Wilderness Medical Society Practice Guidelines for the Prevention and Treatment of Acute Altitude Illness)」を発表して

いる。しかし、日本人の身体能力や体質、日本国内特有の薬剤の用法・用量などが勘案されていないので、WMSのガイドラインをそのまま日本人に応用するのは困難である。今回の日本独自のガイドラインは、日本の実情を十分に反映させ、約3年の歳月を経て脱稿に至っている。執筆陣は本邦登山医学の最先端研究者であり、記述にあたってはエビデンスレベルの明記、用語の統一、十分な文献紹介にも配慮している。本ガイドラインにより日本の山岳医療の標準化が図られ、エビデンスに基づいた診療が可能となると考えられる。また、海外遠征や国内の山岳診療所においても、高山病や関連疾患の予防と傷病者の治療に活用されることが期待される。

尚、章立ては以下ようになっており、いわゆる「高山病」だけでなく、登山の現場で発生する多くの疾患、傷病について記述されることがお分かりいただけるだろう。

- 第I章 急性高山病
- 第II章 高地脳浮腫
- 第III章 高地肺水腫
- 第IV章 高地での循環器疾患
- 第V章 高地での呼吸器疾患
- 第VI章 低体温症
- 第VII章 熱中症
- 第VIII章 高地での心肺蘇生

本ガイドラインで紹介した主な医薬品一覧

発行 中外医学社 2017年6月

サイズ B5判116頁 定価 2,900円＋税  
ISBN978-4-498-06688-5 (記 齊藤 繁)



平成29年度(29年6月)  
常務理事会報告

日時 平成29年6月14日(水)  
場所 岸記念体育会館・4F会議室  
出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、村岡、小日向、合田、蛭田、町田の各常務理事、中島監事  
委任：仙石常務理事  
欠席：水島常務理事  
(業務執行理事14名中12名出席)

### 1. 議事

- (1)平成29年度総会議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認された。
- (2)平成29年度理事会(第2回)議事録に

- ついて(事前送付済)  
異議なく承認された。
- (3)JOC委員候補について  
尾形専務理事を総務委員、小日向常務理事を選挙強化本部委員に推薦することが、承認された。
- (4)2017年パラクライミング代表選手承認について  
SC部から提案があった、B1男子2名、B2男子2名、女子1名、B3男子1名、RP2男子1名の代表選手が承認された。
- (5)チームジャパンの商標登録について  
商標登録出願していた3件について登録査定の結果、商標登録ができることになったが、商標登録はしないことで承認。
- (6)各種Working Group発足について  
小野寺事務局長が資料に基づいて以下の(7)(8)(9)(10)も含めて説明された。
- (7)合田提案-1 ガバナンス委員会設置
- (8)合田提案-2 委員会規程の整備

- (9)合田提案-3 理事会の開催方法
- (10)合田提案-4 今後の事務局体制のありかた ガバナンス委員会の設置、委員会規程の整備、理事会開催方法、事務局体制の在り方等について検討するWGを発足することで了承。
- (11)オフィシャルサプライヤー契約更改について 提案通り承認された。
- (12)㈱シンカへの取材協力について  
日本代表チームのシンカへの取材協力については、昨年同様の条件なら協力することで了承。
- (13)JOC強化スタッフについて  
提案通り承認された。

### 2. 報告事項

- (1)山岳4団体懇親会について  
7月20日(木) 原宿・南国酒家
- (2)スポーツ功労者顕彰等式典について  
7月3日(月) ホテルニューオータニ  
八木原会長、榑崎智亜、野中生萌、野口啓代各選手出席。



- (3) 専門委員委嘱について  
小野寺事務局長から資料に基づき報告があった。
- (4) 宮崎県文化賞受賞・宮崎の岩場について  
三澤澄男氏の候補者推薦への協力について報告があった。
- (5) 法人カードについて  
帯同コーチの経費精算用に法人カードを作ることが報告された。
- (6) インターハイ技術顧問派遣について  
蛭田指導委員長を派遣。
- (7) 5月度月次決算報告について  
小野寺事務局長から月次資料に基づき報告。
- (8) スポーツ・コンプライアンス教育振興機構設立記念会について  
合田常務理事が出席。
- (9) U A A A 理事会報告  
八木原会長から資料提示があった。
- (10) 愛媛国体リハーサル大会報告  
村岡常務理事から報告があった。
- (11) WC ベイル大会報告  
小日向常務理事から報告があった。
- (12) リード合宿、ユース合宿の決定経緯について  
選手強化委員会の内部で調整してから連絡したいとの報告があった。
- (13) World Games 壮行会  
7 / 5 の記者会見・壮行会について報告があった。
- (14) 那須塩原警察からの問い合わせ資料に基づき報告があった。
- (15) 指導委員会の仕事の分担について  
蛭田常務理事から説明があった。
- (16) 2020 テストイベントについて  
小日向常務理事から報告があった。
- (17) 今後の大会運営について  
平山副会長から選考大会等についての案について報告があった。

### 3. 指導員・審判員 検定結果報告

- (1) 山岳指導員 栃木 22名合格  
・検定日 H 28 / 9 / 24 ~ H 29 / 1 / 15 ・検定場所 宇都宮市 古賀志山 ・認定日 H 28 / 6 / 5  
若林浩一、迫和彦、齋藤裕嗣、久我隆泰、落合聡、小濱祥、二十二修、柳澤嘉子、野口薫、関朝子、鶴見勝司、高久徹、田中学、石井和夫、大末篤司、鈴木基允、渡邊愛理、松岡登、梅原浩、倉俣勝輝、齋藤俊、増淵篤史  
上記は異議なく承認された。

### 4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1) 福井岳連「里山」と初夏の湿原観察」後援名義について
- (2) (一社) 大阪府岳連後援名義事業「第43回大阪府チャレンジ登山大会」終了報告について
- (3) 「テレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭り」— スポーツクライミング壁企画の後援名義について  
上記3件については、異議なく承認された。

### 5. 専門委員会動静

- 5月(5月1日~6月5日)  
(1) 指導常任委員会

- 5月1日(月) 出席10名 委任5名  
ア) 報告  
① 夏山リーダー検討会について  
夏山向け登山講習および夏山リーダー制度の必要性、U I A A とのマッチング説明を作成した。  
② 遭対委員会について  
4月15、16日、土合山の家、冬山レスキューの遭対常任委員研修会を行った。  
③ スポーツクライミング部について  
S C 指導者の義務研修を受講する機会を増やすために、国体の監督会議を義務研修と位置づけ義務研修の内容も含めた会議にすることが望ましいのではないか。国体委員長と協議する。

#### イ) 検討事項

- ① スポーツ指導者専門科目修了認定申請・山岳指導員(4 / 21 受付)  
香川：平野晋一、松岡定幸、若狭和雄、坂本土代  
② S C 指導者養成について  
③ 富士山氷雪技術研修会について  
4 / 29 ~ 30、研修会：13名  
上級指導員：下山聡、佐々木俊晴、吉田法茂、榎本光弘 以上4名、6月に検討  
A 級主任検定委員：滝澤大徳、吉田岳、中庭稔、以上3名合格。  
④ 指導委員総会について  
⑤ 検定基準の検討について  
平成30年度より大幅改訂の検討(1 - 1) 指導常任委員会  
6月5日(月) 出席11名、委任2名

#### ア) 報告

- ① 夏山リーダー制度について  
・指導員総会で説明 & 意見交換会(ブロック毎)で検討した。  
・遭対常任研修会(6 / 10 ~ 11) でも検討  
・遭対総会(6 / 24 ~ 25) で発表

#### ② 遭対委員会

- ・西内委員長より町田委員長に交代

#### イ) 検討事項

- ① スポーツ指導者専門科目修了認定申請  
※前記3. 指導員、審判員、検定結果報告参照  
② 中央開催 S C 指導者養成について  
宮城より申し込み有(S C 上級指導員)  
③ 富士山氷雪技術研修会報告について  
A C 上級指導員受講者は、氷雪技術4名合格。下山聡、佐々木俊晴、吉田法茂、榎本光弘(全員東京)  
④ 指導委員総会報告について  
⑤ ドキュメント

- ・平成29年度の検定基準の作成について  
・平成29年度 S C テキストについて  
⑥ 平成29年度体制について  
⑦ 指導・遭対合同研修(8 / 19 ~ 20) について  
⑧ 登攀技術研修会(10 / 28 ~ 29、福島) について  
⑨ 専門科目不合格者に対する通知について

#### (2) 国際委員会

- 5月16日(火) 出席9名、委任6名  
ア) 報告  
① キルギス マウンテンスピリット2017

参加者について  
岩田直也(29歳)、保坂朋秀(26歳)の2人をアク・サイ氷河テクニカルコースに派遣。久松靖(レーニン登山コース希望)は事情により辞退。

- ② イラン 3rd サマーキャンプ(ダマバンド、アラムクー) 公募開始 本国締め切り5 / 31

- ③ アメリカ A A C 国際クライマーズミート公募開始  
第1次締め切り5 / 19  
カ) 協議事項

- ① 平成29年度国際委員総会兼第56回海外登山技術研究会について  
7月22、23日 オリセン80人部屋  
23日の「厳冬期単独ノンサポート北アルプス全山縦走」舟生大悟氏のみ、講演交渉中。また22日「カン・ナチュゴ峰登山報告」は演題など確認中。その他は確認済み。

- ② 国内外に向けてのHP案について

- ③ 今年度の委員について  
平成29年度の国際委員の委嘱を確認。平田伸也氏(小谷村)、松澤幸靖氏(白馬村)、倉橋俊行(千葉)の3氏を山岳スキー担当の国際委員に委嘱。山岳スキー小委員会は、澤田、笹生、佐伯、平田、松澤、倉橋で組織する。鈴木副委員長についても了承。

- ④ 第4回海外登山懇談会(11 / 16(木)オリセン80人部屋)について  
テーマや講師案を考える。角幡唯介氏(極夜の北極圏の話)、夏の奨励金隊の報告などの案あり。

#### (3) 自然保護委員会

- 5月18日(木) 出席13名 委任3名  
ア) 議事  
① 議事録確認  
平成29年4月度自然保護常任委員会議事録について

#### ② 審議

- ・常任研修会について 6 / 17 ~ 18  
・携帯トイレパンフレット制作(前田印刷に発注)(田上)  
・日山協自然保護委員総会石川県大会について  
下見6 / 6 ~ 7 (松隈 岩崎 小林)  
・自然保護指導員登録証について  
J M S C A 西暦表示150部発注  
・自然保護委員会プロジェクトについて  
・自然保護指導員養成テキストについて  
・「山の神」調査について

#### ③ 情報交換・連絡事項

- ・阿里山アジア自然保護交流会  
11 / 22 ~ 27 台湾 詳細計画書は6月頃  
・雲取山・奥多摩小屋トイレについての研修(10 / 21 ~ 22) 都岳連  
・第2回シカセミナー 3月末予定(山岳団体自然環境連絡会 日山協・都岳連担当)  
・谷川岳植物観察会(7 / 16(日))  
集合：谷川岳ロープウェイ駅

#### (4) 遭対委員会

- 5月31日(木) 出席14名  
ア) 常任研修(6 / 10 - 11) について  
・1日目はクライミングA Bの内容確認、2日目縦走・ハイキングの確認、ワークは30分程度説明のみ

イ) 総会(6/24-25)について

- ・研修は夏山リーダーについては指導総会と同内容、同資料の予定、20部は常任研修時に常任委員に配布
- ・ドローンはデモもしたいので最初に行う。谷川岳の映像とデモ機、どのように活用できるか資料を都岳連が用意する
- ・最近の山岳事故については那須の雪崩事故について検討。事故は起こりうるという前提での準備や計画、行動が必要。

ウ) 全山遭(7/7)について

- ・トムラウシ事故と同様、那須事故により参加者が増える可能性がある

エ) 山岳遭難セーフティカードについて

- ・従来の冬山、5月連休のチラシに代わって、一般登山者向けの夏山の山岳遭難セーフティカードを作成配布することになった。

オ) 29年度遭対委員会の新体制について

- ・西内が登山部長、常務理事を退任し、町田が新常務理事に就任。仙石が登山部長に、町田が遭難対策委員長を担務
- ・副委員長は青山(重任) 石田(新任) 西

- 内(新任) 事務局長瀬藤(重任) とする
- 力) AvSar 協議会について
- キ) その他
- ・S A R 研究機構で那須雪崩事故のシンポジウムを開催予定とのこと

6. その他の重要事項

- 5月13日~6月4日
- (1)第1回理事会  
5月13日(土) 於: 岸記念体育会館  
八木原会長 他
- (2)(公社) 日本山岳ガイド協会総会懇談会  
5月16日(火) 於: 弘済会館  
八木原会長
- (3)全国山岳遭難対策協議会幹事会  
5月17日(水) 於: スポーツ庁  
西内常務理事
- (4)大阪常翔啓光学園 クライミングボードお披露目パーティ 5月19日(金)  
於: 常翔啓光学園 八木原会長
- (5)第3回ボルダリングユース日本選手権  
5月20日(土)~21日(日)  
於: 鳥取、倉吉市  
八木原会長、森下部長、小日向強化委員長

- (6)東北地区岳連連絡協議会  
5月20日(土)~21日(日) 於: 宮城県  
高橋副会長
- (7)東京2020オリンピック競技大会国内競技団体協議会 5月25日(木)  
於: 虎ノ門ヒルズ森タワー  
尾形専務理事、小日向スポーツマネージャー
- (8)J O C 総務委員会総会  
5月26日(金) 於: 岸記念体育会館  
尾形専務理事
- (9)日本山岳文化学会創立15周年記念祝賀会 5月27日(土)  
於: 明治大学紫紺館 亀山副会長
- (10)平成29年度定時総会  
5月28日(日) 於: 岸記念体育会館  
八木原会長ほか
- (11)(一財) 全国山の日協議会理事会・評議員会 5月30日(火) 於: 弘済会館  
尾形専務理事
- (12)U A A 理事会  
5月29日(月)~6月5日(月) 於: モンゴル  
八木原会長、笹生常任委員
- (13)37回登山医学術集会 / 4回アジア太平洋登山医学会 6月3日(土)~4日(日)  
於: 松本市キッセイ文化ホール  
尾形専務理事
- (14)指導委員総会  
6月3日(土)~4日(日) 於: 海員会館  
亀山副会長、瀧本常務理事

寄贈図書

寄贈本	東 秀磯	「スポーツクライミング教本」著: 東 秀磯
雑誌	プレジデント社	「Family」2017夏号
	(株)山と溪谷社	「ROCK & SNOW」No.076
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.987
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.841
	(株)ソル・メディア	「CLIMBERS」# 4
会報	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第600号
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第110号
	(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」No.470
	横浜山岳会	「山」1020号
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCnews」第547号
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第330号
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」第57号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.333
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.225
	(公財)日本体育協会	2017年6月12日号 体協フェアプレインュース/体協スポーツニュース
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.509
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」2017.7
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.14
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.691
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.94
	(公社)日本山岳会	「山」No.865
	やまびこ山想会	「やまびこ」第171号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第423号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第443号
	Corean Alpine Club	「山」Vol.251
Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.222	
日本山岳文化学会	「山岳文化」第18号	

編集後記

岩手富士、南部富士と呼ばれる岩手山は、八幡平、滝沢、雫石の3市町村にまたがるコニーデ型火山で、岩手県の最高峰だ。この岩手山の山開きが7月1日に行われた。山開き行事とコラボ企画した「山の日」制定記念2017年「みんなでふるさとの山を登ろう」イベントにスポーツ庁の鈴木大地長官が参加された。昨年9月の台風10号で甚大な被害に見舞われた岩手県岩泉町のバレーボール少年団の子供たちをはじめ、1300名を超す登山愛好家と一緒に登山された。

登山は、スポーツ庁が取り組む4つの課題の中で、「スポーツによる健康増進」、「スポーツによる地域・経済活性化」に相応しいスポーツなので、これからも全国の山に登りたい、と話された。力強い後押しである。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第580号

定 価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成29年7月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会

電 話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

一般財団法人 日本トレイルランニング協会  
 神奈川県事務局  
 〒252-0184  
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

妙高赤倉マウンテンレース  
 パーティカル5K & トレイルラン25K

NPO法人 北丹沢山岳センター  
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会  
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp  
 ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会  
 ・陣馬山トレイルレース実行委員会  
 ・道志村トレイルレース実行委員会  
 ・八重山トレイルレース実行委員会  
 ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会  
 ・上野原秋山トレイルレース実行委員会  
 大会々長 杉本憲昭



山岳  
雑誌

# 岳人

山と人、  
時代をつなぐ  
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

## 年間購読がおすすりめです。

**購読割引** **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊  
**8,160円** (税込8,812円) **→ 7,480円** (税込8,078円)  
1年間で680円  
1冊分無料

### 年間購読特典

岳人オリジナル  
コンパクトフォームパッド

年間購読を  
お申し込みの  
みなさまに  
プレゼント!



使用サイズ  
33×26×0.8cm



「岳人」2017年8月号

8月号  
7/15発売

### 特集 テントと山旅

【連載】竹田津 実「オホーツクの村物語り」  
斎藤 潤「しま山100選」/山の学問/登山と体  
/とっておきの山歩き ほか

本体価格 680円 (+税)

★モンベルのウェブ  
サイト、全国のモン  
ベルストアや書店  
にて発売中!

年間購読  
お申し込み方法

◎ウェブサイトで  
<http://www.gakujin.jp/>

◎お電話で (受付後に振込用紙をお送りします)  
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp/>

期待される、  
という希望。

期待されすぎている、  
という不安。



未来は、  
希望と不安で、  
できている。

明日をつよく。三井住友海上

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



# あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト  
( [www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/) )



WEBからもお申込みいただけます ( [www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com) )